

朝日新聞
日曜版

年月

日

新 聞

2001年(平成13年)1月21日 日曜日

日 曜 版 4

悠・遊・人

夫婦でシャッフルボードを楽しむ

薩川 俊三さん 久美さん

細長いコートの端から端へ、黄色と黒の
円盤がスルスルと滑る。横浜市の郊外で、
冬の日差しを浴びながら、四十人ほどの年
配の男女がシャッフルボードという風変わ
りなスポーツを楽しんでいた。

先が二またになった長さ百九十センチの棒
で、十数分先の得意エリアめがけて樹脂製

の円盤を押し出す。一対一で交互にシュー
トし、相手の円盤をほじき出す反動で自分
の円盤を得意エリアに入れるなど、「頭脳
プレー」が求められる。

「簡単そうで奥が深い。夫婦ですっかり
はまってしまいました」。横浜市の薩川俊
三さん(左)と久美さん(右)は、日曜になる
とおにぎりと水筒を持ってコートに通う。
十二年前、友人に誘われたのがきっかけ
で、夫婦でクラブに入った。

二年目から国際舞台

夫婦で対戦することもある。「互いに
自分の方がうまいと思っている」とか
＝横浜市都筑区の葛ヶ谷公園で



わずか一年後、二人はカナダで開催された
国際大会の舞台に立った。「日本は競技人
口が少ないから、すぐ出られるんです。で
も、代表選手団のユニホームを着て行進し
たときは感激でした」

三年前と昨年、本場の米フロリダ州に
二月間家を借り、「シャッフルさんま
いの日々」を過ごした。常夏のフロリダで
は、十月から三月まで、米国内やカナダの
定年退職者が楽しさを求めて塵芥に來て、
シャッフルボードを楽しむ。連日競技会が
あり、新聞、雑誌にも記録や解説が出る。二
人の名前も雑誌に載った。

そんな夫妻に三年前、悲しい知らせが飛
び込んできた。結婚してヨーロッパで暮ら
していた長女、万里子さんが病気で急死し
たのだ。「私たちが立ち直れるだろうか
と、万里子のお骨と一緒に帰る飛行機の中
で、ずっと考えていました」

だが、横浜で開かれるシャッフルボード
の国際大会が二月後に迫っていた。実行
委員だった俊三さんは準備に追われ、久美
さんも手伝った。「毎日がアツという間
でした。シャッフルがなげにどうなってい
たか……」

昨年、フロリダにシャッフルボードの記
念館ができた。「館内の日本コーナーに和
服を展示したい」と頼まれ、万里子さんの
形見の振袖を着て贈った。
二人は来年の国際大会を今から楽しみに
している。開催地はフロリダ。万里子さん
の着物が、待っている。

(文と写真・松村 康史)